

厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業（精神障害分野）
「摂食障害の診療体制整備に関する研究」
分担研究報告書

臨床上の経済的課題への対応の明確化に関する研究

分担研究者 吉内一浩 東京大学医学部附属病院心療内科 准教授
研究協力者 野口晴子 早稲田大学政治経済学術院公共経営専攻 教授
稲田修士 東京大学医学部附属病院心療内科 助教

研究要旨

摂食障害を対象とした診療報酬としては、摂食障害入院医療管理加算が設定されているが、外来診療に関しては摂食障害を対象とした診療報酬は設定されていない。本症患者が増加する一方で、現在の日本の医療制度下では、摂食障害の治療者の絶対的不足、摂食障害の治療にかかる時間や労力の割には診療報酬が低いこと、摂食障害の専門的治療施設の必要性などが問題点として挙げられる。摂食障害を診療対象とする医療機関を増やし、診療体制の整備を行うためにも、医療経済上の改善が望まれている。本研究では、摂食障害患者の受療状況や、経済状況、レセプトによる診療点数などの調査を行ったうえで、摂食障害を診療する場合の適正な診療報酬を明らかにし、政策提言を行う事を目的とし、多施設共同研究の枠組みで、外来受診患者の連続サンプリングを行う前向き研究を行うこととした。今年度、各医療機関における倫理委員会での承認が得られ、調査が開始となった。

A. 研究目的

摂食障害を対象とした診療報酬としては、摂食障害入院医療管理加算が設定されているが、外来診療に関しては摂食障害を対象とした診療報酬は設定されていない。

たとえば、心療内科においては、身体疾患（心身症）の併存があった場合に、心身医学療法（初診時 110 点、再診時 80 点。ただし、20 歳未満の場合には、200/100 を加算）が算定できるのみで、精神科においては通院精神療法として、30 分以上の場合 400 点、30 分未満の場合 330 点が算定できるのみである。

本症患者が増加する一方で、現在の日本の医

療制度下では、摂食障害の治療者の絶対的不足、摂食障害の治療にかかる時間や労力の割には診療報酬の低いこと、摂食障害の専門的治療施設の必要性などが問題点として挙げられる。摂食障害を診療対象とする医療機関を増やし、診療体制の整備を行うためにも、医療経済上の改善が望まれている。

以上のような背景から、本研究では、摂食障害患者の受療状況や、経済状況、レセプトによる診療点数などの調査を行ったうえで、摂食障害を診療する場合の適正な診療報酬を明らかにし、政策提言を行う事を目的とし、多施設共同研究の枠組みで、外来受診患者（初診及び再診）の連続サンプリングを行う前向

き研究を行うこととした。

B. 研究方法

診断のために、半構造化面接、身体診察を行う。同意を得られた方に対して、自己記入式の質問票を配布する。質問票の項目としては、医学的社会的患者背景、社会関係資本、当該医療機関までの交通手段と通院時間および通院にかかるコスト、通院にあたっての付き添いの有無、当該医療機関受診までの受療行動、他の機関で心理療法などを受けている場合の利用状況などが含まれる。上記で不足している情報、レセプトによる診療点数、診療時間、入院した場合の在院日数、発症/維持要因については、カルテで確認を行う。また、調査開始以降3か月毎の体重測定および、The Eating Disorders Examination Questionnaire (EDE-Q) により、病態や治療効果の評価を行う。

レセプト診療点数、診療時間、体重、EDE-Q スコアに対する、医学的社会的患者背景や重症度の効果について、重回帰分析を行い、診療報酬点数と診療時間との間の不整合性や、費用対効果などについて、統計学的考察を行う。

なお、共同研究施設・研究者は以下の通りである。

(共同研究者)

須藤 信行 九州大学大学院医学研究院 心身医学 教授

福土 審 東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻行動医学分野 教授

井上 幸紀 大阪市立大学医学部神経精神科 教授

和田 良久 京都府立医科大学精神科 准教授

中里 道子 千葉大学大学院医学研究院精神医

学 特任教授

(倫理面への配慮)

研究に参加する各医療機関において、倫理審査委員会にて研究実施計画書、説明文書、同意書の承認を受けた後に研究を開始する。

研究者は患者本人に倫理審査委員会にて承認が得られた説明文書を患者本人に渡し、研究についての説明を行った後、患者が研究の内容をよく理解したことを確認した上で、研究への参加について依頼する。同意の拒否や撤回により不利益をこうむることはないことも併せて説明する。患者が研究に同意した場合、同意書を用い、説明をした研究者名、同意した患者名、同意を得た日付を記載し、医師、患者各々が署名する。未成年者の場合は、本人と保護者の両方から同意を取得する。また、15歳以下の患者に対しては、小児用の説明文書、同意書、同意撤回書を使用する。

C. 研究結果

プロトコルが完成し、東京大学医学部附属病院心療内科、九州大学医学部心療内科、東北大学医学部心療内科、大阪市立大学医学部神経精神科、京都府立医科大学精神科、千葉大学医学部附属病院精神神経科・こどものこころ診療部の全施設において、倫理委員会の承認が得られ、調査を開始した。

調査対象者は、全体で197名(29.6 ± 10.6歳)で、男性4名(25.5 ± 9.6歳)、女性193名(29.6 ± 10.6歳)であった。

なお、各施設ごとの対象者は、九州大学が50名(男性2名、女性48名)、東北大学が50名(女性のみ)、大阪市立大学が31名(男性1名、女性30名)、京都府立医科大学が14名(男性1名、女性13名)、千葉大学が20名(男性2名、女性18名)、東京大学

が52名(女性のみ)という結果であった。

データベース構築および縦断データ収集中である。

D. 考察

これまでの先行研究では、摂食障害の患者側の医療コストについて調べたものは存在するものの、診療点数や、診療時間など、医療者側の労力や診療報酬についても調査したものは稀である。これらについて、多施設共同研究の枠組みで、横断および縦断観察を行う本研究は、新しい知見を提供できると考える。

また、本研究は、摂食障害を診療する場合の適正な診療報酬を明らかにし、政策提言を行う事を目的としている。これにより、今後、医療経済面が改善し、診療体制が整備され、摂食障害を診療対象とする医療機関が増えることで、将来的に、国内に満遍なく高度なレベルの治療が提供できるきっかけになると考える。

E. 結論

摂食障害を治療する医療者や医療施設が増加し、患者に有益な治療を提供できるようになるために、本研究は不可欠であると思われる。今後、197名のデータの解析を行い、政策提言に繋げたい。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Horie T, Harashima S, Yoneda R, Hiraide M, Inada S, Otani M, Yoshiuchi K. Case series of patients with anorexia nervosa using “tube vomiting”. *BioPsychoSoc Med* 10:32, 2016

2. 学会発表

- 1) Hiraide M, Horie T, Takakura S, Hata T, Sudo N, Yoshiuchi K. Development of the Japanese version of the Fear of Food Measure. *International Congress of Behavioral Medicine 2016* 2016.12.8-10 (Melbourne, Australia)
- 2) Horie T, Hiraide M, Takakura S, Hata T, Sudo N, Yoshiuchi K. Development of the Japanese version of the Clinical Impairment Assessment Questionnaire. *International Congress of Behavioral Medicine 2016* 2016.12.8-10 (Melbourne, Australia)
- 3) Kikuchi H, Yoshiuchi K, Kim J, Yamamoto Y, Ando T. The association between energy intake and momentary depressive mood and its interaction with avoidance coping: a study by using ecological momentary assessment and an electronic diary. *International Conference on Eating Disorders 2016* 2016.5.6 (San Francisco, USA)
- 4) 平出麻衣子, 布留川貴也, 米田良, 原島沙季, 堀江武, 大谷真, 吉内一浩. 再栄養症候群により心不全を併発した神経性やせ症の一例. 第114回日本内科学会講演会内科学会ことはじめ 2016 (東京) 2016.4.16
- 5) 平出麻衣子, 原島沙季, 布留川貴也, 米田良, 大谷真, 榎野真美, 瀧本禎之, 吉内一浩. 性別違和に摂食障害を合併した2症例. 第57回日本心身医学会総会(仙台) 2016.6.4
- 6) 宮本せら紀, 稲田修士, 大谷真, 吉内一浩. 統合失調症を合併した神経性やせ症の一

- 例．第 20 回日本摂食障害学会学術集会
2016.9.3-4 (東京)
- 7) 堀江武、平出麻衣子、吉内一浩．スーパー
ビジョンを受けながら CBT-E による治
療を行い、症状が改善した摂食障害の一
例．第 20 回日本摂食障害学会学術集会
2016.9.3-4 (東京)
- 8) 平出麻衣子、堀江武、高倉修、波多伴和、
稲田修士、大谷真、須藤信行、吉内一浩．
日本語版 Fear of Food Measures
(FOFM) の開発：健常者における検討．
第 21 回日本心療内科学会総会・学術大会
2016.12.3-4 (奈良)
- 9) 堀江武、平出麻衣子、高倉修、波多伴和、
稲田修士、大谷真、須藤信行、吉内一浩．
日本語版 Clinical Impairment
Assessment questionnaire (CIA)の信頼
性・妥当性の検討：健常者における検討．
第 21 回日本心療内科学会総会・学術大会
2016.12.3-4 (奈良)
- 10) 米田良、平出麻衣子、宮本せら紀、木田史
彦、原島沙季、堀江武、松岡美樹子、稲田
修士、大谷真、瀧本禎之、吉内一浩．摂食
障害治療における院内学級の役割の検討．
第 21 回日本心療内科学会総会・学術大会
2016.12.3-4 (奈良)
- 11) 平出麻衣子、木田史彦、宮本せら紀、米田
良、原島沙季、堀江武、稲田修士、柴山修、
大谷真、瀧本禎之、吉内一浩．精神科入院
中に心療内科医として連携を行った神経
性やせ症の一例．第 128 回日本心身医学
会関東地方会 2017.1.28 (東京)
- 12) 木田史彦、宮本せら紀、堀江武、平出麻衣
子、米田良、原島沙季、稲田修士、大谷真、
吉内一浩．再栄養症候群の抑制に糖質制
限食が奏功する可能性が示唆された一例．
第 128 回日本心身医学会関東地方会
2017.1.28 (東京)

G . 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし